

市響音

60周年

習志野公演

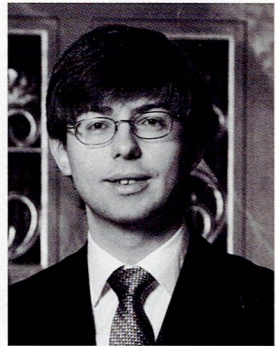
〈オーケストラとパイプオルガンの競演〉

コンサート
あなたの街の演奏会

TOYOTA COMMUNITY CONCERT

30周年-第1348回

ORCHESTRA



Jean-Philippe Merckaert



パイプオルガンとオーケストラのための

バーバー/トッカータ・フェスティヴァ

レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」

サン・サーンス/交響曲第3番(オルガン付)

パイプオルガン独奏

ジャン=フィリップ・メルカールト

札幌コンサートホールKitara第6代専属オルガニスト ベルギー生まれ

指揮

世川 望

管弦楽

市川交響楽団

2011.6.25(土)

午後7時開演(6時30分開場)

習志野文化ホール(JR津田沼駅下車)

入場無料

主催 市川交響楽団協会 協賛 千葉県オールトヨタ販売店・トヨタ自動車株式会社 協力 (社)日本アマチュアオーケストラ連盟 後援 千葉交響楽団協会
お問い合わせ: TEL.047-339-3554 市川交響楽団協会(篠田) 市響ホームページ: <http://www33.ocn.ne.jp/~ichikyoo/>

トヨタ自動車とトヨタ販売会社グループは、アマチュアオーケストラ活動を応援しています。トヨタコミュニティコンサートの情報はインターネットでより詳しくご覧いただけます。 www.toyota.co.jp/tccc/

バーバー /パイプオルガンとオーケストラのための「トッカータ・フェスティヴァ」(1960)

レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」(1916)

夜明けの“ジュリアの谷の噴水”～朝の“トリトンの噴水”～真昼の“トレヴィの泉”～黄昏の“メディチ荘の噴水”

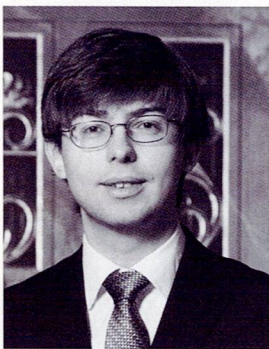
*

サン＝サーンス/交響曲第3番(オルガン付)(1886)

第1楽章 ゆるやかに～穏やかに速く～少しゆるやかに

第2楽章 穏やかに速く～急速に～壮大に～快速に

Profile プロフィール

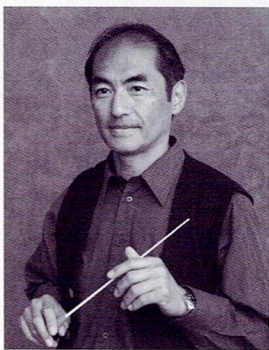


パイプオルガン独奏:ジャン＝フィリップ・メルカールト

ベルギーに生まれ、幼少より音楽を学び始め、18歳でベルギー全国音楽コンクールで「プロ・シヴィターデ」において第1位受賞。フランス国立ナンシー音楽院にてジャン＝フィリップ・フェッツァーにオルガンを師事し、オルガン部門で金メダルを獲得。その後、パリ国立高等音楽院でオルガンをオリヴィエ・ラトリー、ミシェル・ブヴァールに師事。2005年ブルミエ・プリを得て卒業。ベルギーではブリュッセルのベルギー王立音楽院にてジャン・フェラーにオルガンを師事し、2008年修士号を取得、モンス王立音楽院にてクラシック作曲法を学び、2007年修士号を取得。

2007年フライベルグのジルバーマン国際コンクール第2位、2009年8月ブルージュ国際古楽コンクールオルガン部門第2位受賞。2003年から札幌コンサートホールKitaraの第6代目専属オルガニストを務めた。

現在、聖グレゴリオの家宗教音楽研究所講師、及びオルガニスト、片倉キリストの教会オルガン教室講師。2011年4月、所沢市民文化センター・ミュージックホールオルガニストに就任。



指揮:世川 望(せがわのぞむ)

Nozomu SEGAWA

市川市出身。真間小、市川一中卒。芸大附属高校を経て東京芸術大学にてホルンを守山光三教授に師事。卒業後、ミュンヘン音楽大学にてホルンをオットー・シュミッツ教授に、指揮はケルン音楽大学にてミヒャエル・ルイク教授に、オランダのマーストリヒト音楽院にてヤン・シュトゥーレン教授に師事。ボン・ベートーヴェンハレ管弦楽団、ゾーリンゲン市立管弦楽団の契約団員を経て、クラシックフィルハーモニー・ボンの団員を永年務める。

14年間のドイツ生活を経て1997年に帰国。現在は、日本体育大学教養音楽准教授として、スポーツ選手のリズム感教育に携わる傍ら、フリーで演奏活動を行う。アルプホルン・ほら貝の演奏も積極的に行い、2008年の市響旭公演に於いては、アルプホルンのソリストとしてゾマー作曲「アルプスの夏」を演奏する。

現在国際ホルン協会評議員、日本ホルン協会常任理事。室内楽アンサンブル「シヨクラ・ヴィルトオーズ・ジャパン」代表、ホルンカルテット「アンサンブル・フォレスト」団員。

指揮活動としては、市川交響楽団、市響ジュニアオーケストラ、専修大学フィルハーモニー管弦楽団のトレーナーを務める。2010年5月の市川交響楽団ドイツ／ローゼンハイム公演に指揮とアルプホルン・ほら貝のソリストで参加する。

主な自作作品

1. 3本のアルプホルンのための「テコナ・ファンファーレ」
2. アルプホルンとほら貝のための「伏姫」
3. ホルンと琉球舞踊のための「姉(アンダー)と十字架」
4. アルプホルンとほら貝のための「風」～颯起こしにのせて～

管弦楽:市川交響楽団(いちかわこうきょうがくだん)

今年創立60周年を迎えるアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。

メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。

地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。

市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

オーケストラとパイプオルガンの競演

パイプオルガンが楽器として完成されたのはJ.S.バッハやヘンデルが活躍したバロック時代です。当時は主に教会に設置されていて、オーケストラとの競演はキリスト教音楽が主でした。モーツァルトはヘンデルのオラトリオ「メサイア」をオルガンのない会場で演奏するための編曲をしていることからそのことがうかがわれます。そして、本格的オルガンがコンサート会場に設置されるようになったのは19世紀以降だと言われています。これ以降オーケストラとオルガンを融合させた曲が多くかかれることとなります。本日は、名手ジャン＝フィリップ・メルカールト氏をお迎えして、そのような曲の中から19世紀後半、20世紀の前半と後半での特徴的な曲目を1曲ずつお届けいたします。

習志野文化ホールのパイプオルガンは、ドイツのルドルフ・フォン・ベッケラート社製、最大5m直径30cmから最小6mm 直径3mmまで総数3,512本のパイプを持ち、3段の手鍵盤(各56鍵)と足鍵盤(32鍵)と、音色を変えるストップを49(内リードストップ11個)を備えています。また、音を振るわせるトレモロ機能、異なるストップでセッティングされた両方の鍵盤を連結させるカプラ、コンビネーションと呼ばれるストップを記憶させる装置を備えています。

バーバー /パイプオルガンとオーケストラのためのトッカータ・フェスティーバ(1960)

サミュエル・バーバーは1910年にアメリカ合衆国ペンシルベニア州に生まれました。25歳には奨学金でイタリアへ留学し、そのときに作曲した弦楽四重奏曲第1番の第2楽章は、後に「弦楽のためのアダージョ」として作曲者自身により弦楽合奏に編曲され彼の代表作となりました。映画「プラトーン」でも使われた、とても印象的な曲です。



本日演奏する「トッカータ・フェスティーバ」はフィラデルフィアの管弦楽団の本拠地(当時)アカデミー・オブ・ミュージックに新しいオルガンが送られたことに対して委嘱されたもので、ポール・キャラウェイのオルガンソロとオーマンディー指揮フィラデルフィア管弦楽団により初演されました。

曲は上行する自然短音階と分散和音により調性を明示したパッセージで始まり、あたかも大きなドラマを見ているように、叙情的旋律とめまぐるしく変化する刺激的なリズムを見せながら祝典的の壮大さへと進んでいきます。同時に、ある時は激しく、またあるときは神秘的に、そして心休まる響きでと多彩な表情を見せてくれるオルガンサウンドを堪能できる作品でもあり、中間部のカデンツァはとて珍しいペダルだけによるもので、つま先かかとで操り演奏される超絶技巧は必聴です。

レスピーギ/交響詩「ローマの噴水」(1916)

オットリーノ・レスピーギは1879年イタリアのボローニャに生まれ、34歳で聖チェチーリア音楽院の作曲家教授として招かれローマに移り、そのときの印象を「ローマ三部作」として「噴水」「松」「祭り」の3つのテーマで一連の交響詩としてまとめました。23歳の時、ペテルスブルグで教えを受けたリムスキー＝コルサコフからの影響による、色彩感あふれる管弦楽法が特徴です。レスピーギは死ぬまでローマを愛して住み続けたそうです。

今回演奏する「ローマの噴水」は、彼が後に妻とすることになる教え子で歌手のエルザとの恋愛時代にかかれたもので、ローマの有名な噴水をそれぞれの特徴が引き立つ時刻に当てはめて書かれています。どうぞつかの間の納涼ローマ音楽紀行をお味わってください。



夜明けの「ジュリアの谷の噴水」



朝の「トリトンの噴水」



真昼の「トレヴィの泉」



黄昏の「メディチ荘の噴水」

サン・サーンス/交響曲第3番(オルガン付)(1886)

シャルル・カミーユ・サン＝サーンスは、ベートーヴェンが亡くなった8年後に生まれ、ストラヴィンスキーの「春の祭典」初演の8年後まで生きた、フランスはパリ出身の作曲家です。その生い立ちは、母と大祖母に育てられ、ほとんど女性だけに囲まれて多くの知識を吸収し、3歳で絶対音感を持ちピアノ曲を作曲、10歳ではモーツァルトとベートーヴェンのピアノ協奏曲をコンサートで披露するなど早熟な天才と呼ばれ、彼女たちもカミーユを甘やかし勉強から気が散らないように粗野な少年たちを遠ざけました。そして多くの天才たちがそうであるように、他の分野でも抜きん出、彼の卓越した知識は、古典文学、地質学、数学、考古学、そして当時最先端の電気や飛行機、労働運動にまで及びました。

その反面彼は精神的トラブルを抱えていたようで、オペラ創作では、女性により男が裏切られ手足を切断される「サムソンとデリラ」や、王が妻たちの首を次々と刎ねる「ヘンリー8世」などの題材を扱っています。

また私生活でも40歳のとき、友人の娘で10代のマリーと結婚しましたが、2人の息子の不運な死を妻のせいにしたことで不仲となり、6年後には家出、放浪生活に入りエジプトやウルグアイなどの北アフリカで、少年たちとの逸脱した生活を送るようになります。

本日演奏する「オルガン交響曲」は51歳の時の作です。循環形式と呼ばれる、1つのメロディやパッセージを全ての楽章に登場させ、曲全体の統一を図る形式で作曲されています。この循環形式を交響曲に採用した理由についてサン＝サーンスは「作曲者にとって問題なのは、際限のない再現部や繰り返しを避けることでした」と述べるように、ゲルマン系の多くの交響曲が長く複雑に肥大化するに對するフランス人の反動とも思われます。

曲は2つの楽章に分かれています、原理的に4楽章となっています。

第1楽章の静かなイントロのあとに現れる、グレゴリオ聖歌の「怒りの日」の旋律が循環形式の共通主題として揺れるような刻みやシンコペーションで提示されます。このベルリオーズの幻想交響曲で有名な「怒りの日」は、キリスト教で最後の審判を表すもので、神が世界の終末の日に過去の全ての人間を地上に復活させ、天国か地獄かの審判を下す日のことです。その歌詞は「死者のためのミサ曲」でも使われ、キリスト教徒にはこのメロディは死をイメージさせます。パリで幻想交響曲の初演を聴いたリストはこのメロディを「死の舞踏」で変奏曲的にとりあげ、そしてその約10年後にサン＝サーンスも、同じ曲名の管弦楽曲で「怒りの日」使い、悪趣味と評されるほどに描写的な曲を作曲しています。

第1楽章の**後半**は、厳かなミサを連想させるオルガンの清らかな和音に始まる祈りの旋律が星の瞬きと静寂の中に広がります。

第2楽章の始まりはスケルツォで、木管楽器による速いパッセージとピアノによる上行音階のトリオ風中間部を挟みます。第4楽章に相当する壮大なオルガンの響きによって始まる**後半**では、フーガやきらびやかな4手ピアノによる分散和音に乗った透き通るような弦楽器、そしてフーガや、金管楽器による華やかなファンファーレに包まれ、荘厳に全曲を閉じます。



総譜表紙の作曲者名の下には「フランツ・リストの思い出に」と書かれてあり、初演の直後に亡くなった歳の離れた友人リストに献呈されています。

本日の出演者

【コンサートミストリス】

立田 祥子

【第1ヴァイオリン】

石崎 俊信

石本 恵理

上田 佳津子

大橋 一郎

小倉 徹二

小亀 井玲子

菅原 夕美

坂本 瑠美

佐藤 薫

堀 真理子

森 未知

【第2ヴァイオリン】

安藤 撰津子

鎌田 真貴

佐分利 幸江

世川 治子

滝澤 葉子

時田 枝里子

富田 八江子

仁井 理絵

久田 しげ子

溝田 範子

武藤 敦子

村上 葉子

望月 聖仁

望月 優子

【ヴィオラ】

内田 綾美

大橋 かおる

小名 康仁

小鈴木 亜矢子

高野 重樹

谷口 善樹

奈良林 弘子

若林 繁

【チェロ】

岩田 理人

倉澤 倫子

中村 公一

野中 能久

林 恭代

日澤 優

福田 裕子

福原 耕二

堀合 麻由美

【コントラバス】

荒木 夏奈

石橋 圭介

上村 啓介

神代 順子

菊池 克彦

小林 真弓

高柳 互宏

村上 信乃

安永 裕

【フルート】

木村 眞論紀

佐藤 洋行

篠原 梨恵

【オーボエ】

荒井 淳

二村 直子

本間 広樹

【コールアンブレ】

鈴木 宏子

【クラリネット】

井垣 貴嗣

一瀬 直美

時田 雄

半藤 嗣人

八木 良子

【ファゴット】

菅原 斉

山内 静

【コントラファゴット】

増子 恭一

【ホルン】

木下 泰斗

近藤 利昭

嶋村 恒夫

林田 朋子

藤井 茂司

山内 正晴

【トランペット】

安藤 宣明

田崎 真二

柳澤 武志

【トロンボーン】

齊藤 翼

坂田 圭

吉川 昌憲

【チューバ】

渡邊 鉄雅

【打楽器】

大澤 香奈

都筑 裕

時田 裕

春田 美穂子

和田 英恵

【ハープ】

大木 理恵

三浦 麻葉

【チェレスタ】

佐々木 絵理

【ピアノ】

小久保 綾子

佐々木 絵理

【オルガン】

ジャン＝フィリップ・メルカールト